

平成29年度
公立大学法人首都大学東京
業務実績評価書（案）

I 全体評価

【全体評価】

平成 29 年度は、6 年間の第三期中期目標期間の初年度であり、期間の基礎の年となるよう、新たな中期計画に基づいた年度計画を順調に実施しており、着実な業務の進捗状況にある。

●優れた点・特色ある点

- 首都大学東京では、平成 30 年度の学部・大学院の教育研究組織再編に向けて、カリキュラムマップやカリキュラムツリーの策定など教育に関する準備を着実に進めるとともに、積極的な入試広報を展開し、組織改編がスムーズに進められた。また、教育改革を推進する取組として、平成 29 年 4 月に設置した教学 IR¹推進室が、教学に関する様々なデータを分析して、大学執行部、学部・研究科等の教育改善に貢献し、短期間に多大な成果を得ている。
- 産業技術大学院大学では、大学の特徴を生かした人材教育の柱である PBL²型教育が着実に成果を上げている。さらに、PBL 型教育のノウハウを体系的にまとめ、日本語と英語の両方で HP や冊子で公開するなど、教育成果を効果的に発信し、国内外から注目されている。
- 東京都立産業技術高等専門学校では、産業界や社会の人材ニーズに応えるため、新たな教育手法の導入や学習環境の整備を積極的に推進している。特に、2 つの新たな職業教育プログラムはユニークな内容で、企業・官公庁等の協力を得ながら着実に進めている。

●改善すべき点

- 個人情報漏えい事故が複数あったことは誠に残念である。事故について十分に検証し、再び事故を起こさないための対策を議論し、情報セキュリティ事故防止強化対策に組織として取り組んでいただきたい。

1 総 評

- 公立大学法人首都大学東京（以下「法人」という。）の 2 大学 1 高専は、教育内容の充実と質の向上を目指して、教育改革に継続して取り組み、教職員の協力体制を得ながら、教育の成果を着実に上げてきた。また改革の効果を把握し、検証しながら、新たに効果的な教育手法やプログラムの導入を図る取組を進めていることを評価する。
- 2 大学 1 高専は、法人の支援を受けながら、グローバル化に向けた取組を着実に進めている。

¹ Institutional Research の略。大学の計画策定、意思決定等を支援するための情報を提供する目的で、教育・学修に関するデータを対象として調査・分析を行うこと。

² Project Based Learning の略。実社会で即戦力として活躍できる人材を育成するために有効な教育手法。数名の学生が明確な目標を掲げ、1つのプロジェクトを完成させていくことで、実社会で真に役立つ知識や技術を習得する。

特筆すべきは、学生の海外派遣の取組において、大学・高専に所属する年齢や経歴の異なるメンバーでチームを編成し、課題解決力、英語を含むコミュニケーション能力、国際的な感覚等を養成する取組で、法人の特性を生かした優れた内容である。法人全体のグローバル化の更なる加速に期待する。

- 法人は2大学1高専の教育研究を含め運営全般にわたって支援し、教育研究の成果を着実に上げるための大きな力になっている。

【首都大学東京】

- 首都大学東京（以下「首都大」という。）では、平成29年4月に教学IR推進室を設置し、教学に関する様々なデータを分析して、大学執行部、学部・研究科等に提供し、短期間にも関わらず、多大な成果を生み出したことは高く評価できる。教学IRが、更なる教育改善に有効に活用されると期待する。
- 平成30年度の学部・研究科の教育研究組織再編に関して、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの策定やルーブリック評価³の導入に向けた取組を精力的に進めるとともに、学生支援の準備も着実に進められた。また、新たな学部・研究科の体制で実施される入学試験に向けて、積極的な広報活動を展開し、志願者を確実に確保した成果を評価する。
- 各部局において、アクティブ・ラーニングを積極的に推進し、部局特有の状況に合わせた内容で、教育の質を高める取組を実施したことを評価する。
- 基礎研究における国際的な評価は依然として高く、基礎研究力の高レベル維持・強化のための戦略的な取組が推進されており、さらなる研究の発展を期待する。また、首都にある高等教育機関としての特色を生かした大都市課題への取組や社会貢献も着実に進行している。

【産業技術大学院大学】

- 産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）では、ロールモデル集の活用や産技大の特徴であるPBL型教育のノウハウを「AIIT PBL Method」として体系的にまとめ、日本語と英語の両方で公開するなど、広く教育成果を公表し、国内外から注目されている。このような努力が、志願倍率の改善につながっていることを評価するとともに、今後もこの状態が継続されることを望む。
- 教育の質の向上を図るFD⁴活動は、大学の特徴を生かした取組により成果を上げている。FD

³学生が何を学習するのかを示す評価基準と、学習到達度を示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標のこと。

⁴Faculty Developmentの略。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組

フォーラムへの教員の参加について、当日参加できなかった教員へのサポートとして録画したものの視聴会を後日開催し、最終的には参加率 100%を達成したことを評価する。さらに、学生による授業評価アンケート結果を有効に活用して、教員が授業改善を積極的に行い、高い評価結果を得るなど、FD 活動が教育方法改善に確実に生かされている。

【東京都立産業技術高等専門学校】

- 東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）において、新たな 2 つの職業教育プログラム「情報セキュリティ技術者育成プログラム」及び「航空技術者育成プログラム」が、企業・官公庁等の協力を得ながら、教育内容の充実を図り、着実に推進されていることを高く評価する。
- 国際的に活躍できる技術者の育成として、海外体験プログラムを改善して 2 つのプログラムに再編し、より実践的な内容に強化した。1 年間の海外派遣学生数の目標の 70 名達成するとともに、参加学生から高い満足度が得られている。引き続き、学生ニーズ等を踏まえ、内容の充実を図っていくことを期待する。
- 志願者確保に向けた取組や学生支援の取組は、継続して実施されており、確実に成果を上げている。現在進められている女子生徒の志願者確保に向けての取組に期待する。

【法人の業務運営等】

- 新理事長の下、「GOS（Globalization, Only one, Senior）」関連事業を企画・立案し、2 大学 1 高専の取組を積極的に発信するよう努めている。法人として、学長・校長が率先して取り組む教育改革の基盤整備について、組織の整備などの支援策を常に意識することを望む。
- 平成 29 年度において、個人情報漏えいの事故が複数あったことは誠に残念である。事故について十分に検証し、再び事故を起こさないための対策を議論し、情報セキュリティ事故防止強化対策に組織として取り組んでいただきたい。全教職員に対し、情報セキュリティに関するルール等の周知を徹底すること等により、教職員の理解と自覚を促していただきたい。

2 中期目標の達成に向けた課題、法人への要望など

- 中期目標の達成に向かって順調に進捗していると判断するが、中期目標期間初年度ということもあり、「仕組みができた」「取組を始めた」という項目が多い印象であった。今後は、仕組み作りから、実行に移る項目が増えて、PDCA サイクルによる見直しも含め、その具体的な成果が表れる報告を期待する。
- 中期計画には、数値目標を掲げている項目も多いが、量的な目標だけでなく、質的向上を目指すことを要望する。
- 首都大においては、平成 30 年度の教育研究組織再編に向け、平成 29 年度には再編体制で初めての入試を経た。一般選抜入試の志願倍率は順調といえるが、学生の質が保たれているかどうかなど、その成果を検証していくことが望まれる。
- 首都大の海外留学等派遣者数が大きく拡大しているが、拡大したのは短期留学者が中心であることから、今後、長中期の留学者の増加を期待する。併せて、中長期留学のための支援も充実することを望む。
- 今後の法人の在り方を考えると、プロフェッショナルな人材の存在は不可欠である。すでに人材育成に努められているが、更に努力されたい。とりわけグローバル化が高等教育機関の課題とされるなか、それを担う専門職員の有無が大きなカギとなる。その点も考慮した人材育成が必要であろう。
- 18 歳人口減少が進む状況において、現在は一定の志願者を集めているものの、今後その状態が維持されるかどうかは確証がない。2 大学 1 高専がそれぞれの強みと特色を更に生かして、プレゼンスの向上に努めていただきたい。

Ⅱ 項目別評価

【項目別評価】

① 業務実績の検証

項目別評価を実施するにあたって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。
 検証にあたっては、年度計画及び中期計画に記載されている各項目の業務の実績について、中期計画の進捗・達成状況及び成果・効果を確認するとともに、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。

検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

② 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗・達成状況及び成果・効果を大項目ごとに1～5の5段階で評価した。

【年度評価】（評定・評語・説明）

評定	評語	説明
1	年度計画を大幅に上回って実施している。	顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	年度計画を上回って実施している。	年度計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは年度計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	年度計画を順調に実施している。	達成度が概ね100%程度と認められるもの
4	年度計画を十分に実施できていない。	年度計画を計画通り実施できていないもの 実績・成果が年度計画を下回っているもの
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である。	公立大学分科会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、中期計画を前倒して実施するなど、戦略性が高く意欲的な年度計画を積極的に実施するなどの、その取組に注目すべき内容が認められるもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった年度計画について達成したもの等

年度計画の大項目ごとの評定及び評定説明は、以下のとおりである。中期計画の項目に沿って記載する。

I 首都大学東京の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
1	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
2	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育改革を推進する取組の強化	1
3	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 学修支援環境の整備 ◇ 教育の質の改善	3
4	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
5	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

（優れた点・特色ある点）

- 【大項目1】平成30年度の学部・研究科の教育研究組織再編に関して、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの策定やルーブリック評価の導入に向けた取組を精力的に進めた。特に学生が馴染みやすいよう新たなカリキュラムをマップ化し、個々の学生が学ぶ目標や構造を理解しやすいよう工夫されている。

- 【大項目1】アクティブ・ラーニングの推進について、ラーニング・マネジメント・システム「kibaco」の各教育研究分野での活用、海外大学の学生・教員等との交流、PBL及びFBL (Field Based Learning) の実施など、各部局において多様な取組を実施している点が評価できる。特に、学修ポートフォリオ設計による学修成果の可視化や主体的学修をサポートするための取組など、学生が主体的に行動できるような仕組みづくりが行われているほか、教員に対して、アクティブ・ラーニング手法紹介セミナーの開催・アーカイブ化や、授業改善ハンドブックの充実が図られるなど、学生と教員の両者に対する働きかけが行われている。
- 【大項目2】平成29年4月に教学IR推進室を設置し、7月に教学IRシステムを稼働した。短期間であったが、執行部や各部局からの要求に応え、データ収集・分析を行い、担当者に提供し、予想を遥かに上回る成果を得ている点を高く評価する。教学IRが今後の教育改善に効果的に活用されるよう期待する。
- 【大項目2】教学IRシステムの構築により、教職員の誰もがデータにアクセスし、教学マネジメントに取り組むことができるよう推進している。
- 【大項目3】学長によるFD活動への積極的な参加要請によって、セミナーの開催回数が拡大するとともに、教員の参加者数も過去5年間の平均から61%増と、大きく増加している。
- 【大項目4】ダイバーシティへの配慮の充実について、視覚障害を持つ学生や支援スタッフによる講習会や留学報告を開催し、学生や教職員の障害に対する理解促進を図っている点が評価できる。また、当事者によるセクシュアルマイノリティに関する講習会を開催し、理解促進を図っている点が評価できる。
- 【大項目4】地域住民や自治体と連携して、地域に密着したボランティアプログラム（&TMU みなみおおさまカフェ）が企画されることで、大学の地域貢献にもつながる活動となっている。
- 【大項目5】教育研究組織の再編に関する広報活動を積極的に進めた結果、大学説明会に多くの参加者があり、さらには一般選抜入試において全体の志願者倍率が前年並みであったことは、成果であると評価する。

（更なる充実が期待される点）

- 【大項目3】FD活動としてアクティブ・ラーニング手法紹介セミナーを取り入れたことは優れた発想である。教員の多くは、常々、より良い教育を模索しており、教授法のセミナーに興味をもつ教員比率は高いであろう。今後は、このセミナーの成果として、実際の教育への反映がどの程度なされたかの検証も必要であると思う。そのことが、セミナーの内容や回数に反映されていくと期待される。
- 【大項目4】キャリアサポートOBOGネットワークの更なる充実が期待される。学生としての参加者が、ネットワークへの登録者となる好循環が生じることが望ましい。また、幅広い年代層のネットワークが構築されるよう登録者数を拡大していく取組が期待される。
- 【大項目5】多様な方法で入学者を選抜することを目指して、AO入試等の募集人員を増やしている。受験生の能力等を十分に検証し、首都大にとってふさわしい方法を検討し、柔軟な見直しを行いながら進めるよう期待する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
6	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	2
7	研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	3

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

（優れた点・特色ある点）

- 【大項目6】研究者が取り組む基礎研究のレベルは高く、世界をリードする研究として評価する。被引用度トップ10%論文の割合は、数年の平均で目標の10%を越えており、国際共著論文の割

合も目標の33%を大きく上回っている。

- 【大項目6】大都市課題解決に資する分野横断的・学際的な研究プロジェクトは順調に進められ、いくつかのテーマが東京都の政策に採用され実行に移されつつある。大都市の先端的課題に取り組んでいることは、首都の大学としての特色が生かされている。
- 【大項目6】新たな研究広報機関誌の発行、研究関連のプレスリリース配信プラットフォーム「EurekAlert!」の活用などを通じて、研究成果発信の充実を図っている。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目7】全学の女性教員比率が19.8%で目標の20%をほぼ達成できたことを評価する。今後、女性研究者や外国人研究者の増加に取り組むと共に、彼らが働きやすい環境づくりに努めることを望む。

(改善すべき点)

- 【大項目7】科学研究費補助金の新規採択率が前年度の30.6%から大きく下がり26.3%であった。平成24年度、25年度は35%前後であり、下降傾向にある。まずは、新規採択率30%の回復を期待する。国による研究種目の見直しや、首都大の新規申請数の増加も要因であると考えられるが、検証を十分行うとともに、改善に向けた更なる取組を望む。

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
8	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
9	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	3

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目8】荒川キャンパス体育施設を障害者スポーツのために改修し、障害者団体への貸出等を行うことにより、学生が障害者スポーツを理解し、積極的に支援する意識を持つことになった点を評価する。また、車いすスポーツに関わる研究を進め、より優れた環境作りに貢献している。
- 【大項目8】学生が2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）のボランティア等に参加しやすくなるよう、2020年の前期末試験をオリンピック開催前日までに終了させる方針を決定した取組を評価する。
- 【大項目9】シニアの学びのニーズに対応した首都大学東京 Premium College（仮称）の開設準備が行われた。生涯学習の場を提供するものとして大いに期待される。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目8】東京都職員や自治体職員に対して研修を行うことで、施策の課題解決にも貢献している。引き続き、都や区市町村が抱えている課題を踏まえて、研修内容の見直しや充実を図り、自治体職員の人材育成に資することが期待される。
- 【大項目9】ベンチャー設立を目指す研究グループへの支援により、大学発ベンチャーが3社設置された。さらなる発展を期待する。
- 【大項目9】地域の企業等と連携して、地域課題を解決するためのプロジェクトが7件実施された点が評価できる。引き続き、事業の継続や発展につながる取組の充実が期待される。また、多様な学修機会の一環として、実施されている八王子市や荒川区など地元自治体と連携した取組は社会貢献としても評価される活動である。

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
10	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の国際通用性 ◇ 学生の海外派遣の拡充 ◇ 外国人留学生の受入れ	3
11	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇ 海外の大学等との連携 ◇ 都市外交を支えるネットワーク形成 ◇ キャンパスの国際化	3

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目10】都市外交人材育成基金による留学生をこれまでの最大となる33名を受け入れたことを評価する。都市外交人材基金を有効に活用し、首都大に留学したことの良さを理解される教育研究支援を期待する。帰国した留学生を支援する仕組みを充実させることも期待する。</p> <p>(更なる充実が期待される点)</p> <p>○【大項目10】海外留学等派遣者数が順調に伸びている。中期計画に掲げる派遣人数が少し高いように思えるが、人数を意識し過ぎることなく、留学の内容にこだわって派遣することが望ましい。</p> <p>(改善すべき点)</p> <p>○【大項目11】外国人教員比率が減少したことは残念である。グローバル化に向けて、優秀な外国人教員、あるいは外国人を必要とするポストに、積極的に登用することが望まれる。</p>

II 産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
12	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
13	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備 ◇ 首都大学東京及び東京都立産業技術高等専門学校との連携	3
14	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の評価・改善	2
15	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
16	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目12】産技大版PBL型教育の手法と成果(AIIT PBL Method)を作成し、HP上で公開して、国内外に産技大の教育成果を発信し、幅広く理解を求める活動を評価する。</p> <p>○【大項目13】第1期enPiT(「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」)の</p>

知見を生かして、第2期 enPiT（「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」）が遂行されており、新規参加校とともに取組を充実させている点が評価できる。

- 【大項目14】FDフォーラムの参加者が、後日視聴（視聴後レポート提出）を含め100%に達していることを高く評価する。
- 【大項目15】1年生全員と面談を実施するなどきめ細かく徹底した取組を展開している。
- 【大項目16】ロールモデル集の活用や40社の新規企業訪問をはじめとして、多様な入試広報に努めた努力が実って、志願倍率の上昇を得た点を評価する。今後も引き続き知名度を高める工夫と努力に期待したい。

（更なる充実が期待される点）

- 【大項目12】カリキュラム委員会を新設し、学生のニーズに対応したカリキュラムの見直しを行い、2つの科目が新設されたことが評価できる。今後も引き続き、教育プログラムやカリキュラムの充実が図られることが期待される。
- 【大項目14】学生による授業評価アンケート結果が平均で4.28を得た点は評価するが、平均点だけではなく、評価分布や各教員の特徴などを詳しく分析し、活用していただきたい。
- 【大項目15】ブレンディッド・ラーニングに関する学生向け授業評価アンケートについて、継続して高い評価を得ている点が評価できる。前年と比較して点数が変化している項目について、その理由を分析することで、今後の学修環境改善につながるものと思われる。
- 【大項目15】メンター制導入など社会人学生が学びやすい環境が更に充実していくことを期待する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
17	研究に関する目標を達成するための措置	3

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

（優れた点・特色ある点）

- 【大項目17】教員のPBL研究会への参加率は高く、この教育手法が学内に共有されていることがうかがえる。産技大の教育の特色を示すものとしてさらなる工夫を重ねられたい。
- 【大項目17】開発型研究所について新たに3研究所の設立が実現している点が評価できる。

（更なる充実が期待される点）

- 【大項目17】過去数年間のPBL研究会への教員参加率からPBLについての理解は十分浸透していると思われる。次のステップはPBL型教育において発揮された成果を学外に発信し、産業界にもアピールすることで大学のプレゼンスを高めて欲しい。

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
18	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
19	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目19】AIIT マンスリーフォーラムの参加者が大幅に増加し、大学の知名度向上に貢献している。 ○【大項目19】AIIT シニアスタートアッププログラムを構築して、シニア層に対して起業までを支援するリカレント教育プログラムを構築している点が高く評価できる。今後、起業を実現するシニアが輩出されることが期待される。 ○【大項目19】修了生コミュニティを構築し、リカレント教育を促進する学修環境整備を進めた点が評価できる。 <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目18】都や区市町村等の職員に対する講座が9件実施されており、375名の参加を得ている。引き続き、自治体職員等のニーズに応じた講座企画・実施の充実が期待される。 ○【大項目18】都や区市町村への政策課題支援について、地元(品川・大田区)が目立つが都下全域からテーマを掘り起こし、拡充を図っていただきたい。 		
---	--	--

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
20	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目20】アジア諸国の大学ネットワークを活用して、グローバルPBLの実施や職員受入れの決定、多数の視察受入れ等が行われており、連携が強化されている点が評価できる。また、JAIF(日・ASEAN統合基金)事業の実績について、冊子をまとめてASEAN事務局へ提出するとともに、成果報告会を開催し、普及啓発を実施した点も評価できる。 ○【大項目20】学生がグローバル人材として獲得すべき能力評価について、グローバル寄与度の設定指標をまとめた点が評価できる。 		
---	--	--

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
21	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	1
22	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育システムの継続的な改善 ◇他の教育機関等との連携	3
23	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育の質の評価・改善	3
24	学生への支援に関する目標を達成するための措置	2
25	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目21】情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムは産学連携で開発した独自の教育プログラムで、企業・官公庁等の協力を得ながら順調に進められている。また、プログラム受講者も確実に育ってきており、産業界や社会の人材ニーズに応える教育が行われていると高く評価する。
- 【大項目21】情報セキュリティ技術者育成プログラムにおいて、新たに5件の企業・教育機関と協定を締結し、4年生の履修生に対して12社でインターンシップを実現している点が評価できる。また、航空技術者育成プログラムにおいて、大手航空企業への協力要請を行って、現場実践型講座を行った点が評価できる。
- 【大項目21】海外体験プログラムをGCP（グローバル・コミュニケーション・プログラム）及びIEP（インターナショナル・エデュケーション・プログラム）に再編して、実践的な内容の研修を行い、70人の参加と高い満足度を得ている点が評価できる。IEP参加者をGCPへ推薦する制度を設けたり、GCP同窓会を立ち上げるなど、ステップアップを支援する取組も充実させている。
- 【大項目23】教員は、学生による授業評価アンケート結果に加え、ルーブリック評価の導入により、学生自身の学習到達度をモニタリングし、教育改善の参考にしている。
- 【大項目24】多様な課外活動を支援するため、公募提案方式による課外活動支援を行っている。学生に課外活動での積極的な取組が見られ、学生同士の技術力の研鑽などに貢献している。プログラミングコンテスト競技部門での優勝、高専ロボコン関東甲信越地区大会2017での特別賞受賞など、学生の能力向上に加え、学校のPRにもつながっている。
- 【大項目24】経済的に困窮する学生の支援をきめ細かに行っている点を評価する。
- 【大項目25】受験生確保に向けて、特別推薦入試制度を拡充し、品川区、荒川区と特別推薦枠の協議が進んだ点が評価できる。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目21】情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、平成30年度の1期生輩出後の活躍を期待するとともに、教育プログラムの充実・改善を期待する。
- 【大項目22】首都大、産技大との連携をGCP以外にも拡充し、成果を挙げることを期待する。
- 【大項目22】情報セキュリティに関するリカレント教育を実施するために、平成30年度実施予定の卒業生アンケートに項目を盛り込むなど、今後、調査結果の分析を行った上で、ニーズに応じたプログラムが検討されることを期待する。
- 【大項目23】研修受講率が目標値を達成していることを評価する。今後は研修内容の点検と履修効果の確認、フォロー強化についても取り組むことを望む。
- 【大項目24】学生に対する心理アンケートの実施などにより、援助を必要とする学生のスクリーニングやクラスの状態把握につながっている点が評価できる。教職員や学生相談室担当教員の研修参加など、相談体制の充実を図っている点も評価できる。今後、援助を必要とする学生への相談対応の充実やメンタル面の課題が深刻になる前の早期対応等、取組の充実が期待される。
- 【大項目25】女子学生の志願者増への取組や広報戦略を評価する。引き続き、広報の充実を図ることで、志願者数や入学者数を安定して確保できるようにしていくことが期待される。

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
26	研究に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目26】産技高専の専攻科と首都大及び産技大の大学院の連携による2大学1高専の新たな連携事業が開始されたことは望ましく、今後の展開が期待される。</p>	
<p>(更なる充実が期待される点)</p> <p>○【大項目26】科研費申請件数の増加は望ましく、これを採択につなげる努力が継続的になされることが期待される。</p>	

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
27	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
28	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目27】中学生を対象とした体験型の情報セキュリティ研修について、定員20名に対し60名の応募を得ていて、社会的関心や学びのニーズに対応したプログラムが企画された点が評価できる。後援団体・企業も19組織を確保しており、支援体制も充実している。さらに、参加者のうち11名が産技高専を受検・合格することにつながっている。</p> <p>○【大項目28】大田区及び品川区と連携して開催した「若手技術者支援のための講座」は受講者に高い満足感や充実感を与えていることを評価する。</p> <p>○【大項目28】品川区、警視庁等と連携して、教員と学生が開発した体験システムを活用したサイバーセキュリティ講習会を開催したこと、講習会に学生が講師アシスタントとして参加し、学生に対する社会貢献意識の醸成を図った点が評価できる。</p>	
<p>(更なる充実が期待される点)</p> <p>○【大項目27】都政と連携し、中学生向けに体験型の情報セキュリティ研修を実施し、社会的な賛同を得ていることを評価する。今後、更に対象者を拡大することを期待する。</p>	

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
29	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目29】首都大・産技大・産技高専で進めるGCP及び産技高専単独のIEPは順調に進められており、また海外研修の前に行われる語学研修を始め、いろいろな学生支援活動は産技高専全体のグローバル化への意識高揚に大きな役割を果たしている。</p> <p>○【大項目29】海外体験プログラムに1年間で70名もの参加があったことは特筆すべき成果である。新たな海外体験プログラム(GCPとIEP)が発展することが期待される。</p>	
--	--

IV～VII 法人運営全般に係る目標を達成するために取るべき措置

大項目 番号	取組事項	評価
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置		
30	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	3
31	教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置	3
32	事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置	3
V 財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置		
33	財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置	3
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置		
34	自己点検・評価及び情報提供に関する目標を達成するために取るべき措置	3
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置		
35	その他業務運営に関する目標を達成するために取るべき措置	4

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目30】「GOS」関連事業の企画・立案のために、大学・高専・法人が目標を共有して検討を行い、関連する事業を計画や予算に反映している。 ○【大項目30】教学IR推進室を設置し、教学IRシステムを本格稼働させ、各運営委員会等からの分析・相談依頼に対応することで、施策立案の支援が行われている。また、教学IR推進室会議で定期的な分析報告が行われており、学長・副学長・理事等に情報共有することで、大学が抱える課題の共通認識を持つことにつながっている。 ○【大項目31】産技高専の専攻科生と指導教員が共同研究代表者となって、首都大、産技大の教員や大学院生が指導・助言を行う共同研究事業の検討が行われた点が評価できる。 ○【大項目32】業務の効率化・合理化のために、非常勤職員の正規職員への振替など事務組織における就業形態のバランスを考慮した組織再編や、事務処理方法の見直しを行ったことを評価する。今後も、継続した見直しを期待する。 ○【大項目33】首都大の学部・大学院再編において、志願者減を回避できたことは、法人と大学の連携した広報活動の成果であると評価する。志願者の確保により財政的に安定をもたらしている。 ○【大項目33】長期的な経常的管理経費を把握するために、システム予算の後年度推計や大規模案件調査を行った上で、次年度以降も見据えた計画的な予算編成が行われている点が評価できる。 ○【大項目34】学生の声を受けて、「首都大学東京学生広報チーム」が公募によって組成されるなど、首都大のブランド力向上への、法人、大学、教職員、学生等の取組を評価する。 ○【大項目35】温室効果ガス対策として、求められるエネルギー使用量の削減計画は順調に推移している。
--

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目32】職員の働き方やキャリアに対する意識等も十分に把握した上で、限られた人的資源の中で、組織が強化されていくことを期待する。

(改善すべき点)

- 【大項目30】e-ラーニングによる情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修・自己点検の受講率は91%となっている。法人の教職員全員、PCによる作業を行っている現状を考えれば、当然、受講率は100%であるべきである。
- 【大項目35】残念ながら、本年度は4件の個人情報漏洩事故が発生した。このうち3件はメール誤送信の事故であり、関係者には猛省を促したい。原因が解明され、情報セキュリティ事故発生防止への取組は進められているが、教職員、学生には常に、情報セキュリティに関わる情報を提供し、注意を喚起していただきたい。

平成29年度公立大学法人首都大学東京業務実績評価(案)

項目別評価 評定

(1) 評価結果

段階	評定 評語	29年度		(項目数内訳)			
		項目数	割合	首都大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している	2	6%	1	0	1	0
2	年度計画を上回って実施している	11	31%	3	5	3	0
3	年度計画を順調に実施している	21	60%	7	4	5	5
4	十分に実施できていない	1	3%	0	0	0	1
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0%	0	0	0	0
項目数		35	100%	11	9	9	6

(2) 評価項目

首都大学東京(11項目)	評定	産業技術大学院大学(9項目)	評定	都立産業技術高等専門学校(9項目)	評定
教育関連		教育関連		教育関連	
①教育内容及び教育の成果等	2	①教育内容及び教育の成果等	2	①教育内容及び教育の成果等	1
②教育の実施体制等 (教育改革を推進する取組の強化)	1	②教育の実施体制等 (産業界や他大学等との連携等)	3	②教育の実施体制等 (教育システムの継続的な改善等)	3
③教育の実施体制等 (学修支援環境・教育の質の改善)	3	③教育の実施体制等 (教育の評価・改善)	2	③教育の実施体制等 (教育の質の評価・改善)	3
④学生への支援	3	④学生への支援	3	④学生への支援	2
⑤入学者選抜	2	⑤入学者選抜	2	⑤入学者選抜	2
研究関連		研究関連		研究関連	
⑥研究水準及び研究の成果等	2	⑥研究	3	⑥研究	3
⑦研究実施体制等	3	社会貢献関連		社会貢献関連	
社会貢献関連		⑦都政との連携	3	⑦都政との連携	3
⑧都政との連携	3	⑧社会貢献等	2	⑧社会貢献等	3
⑨社会貢献等	3	グローバル化関連		グローバル化関連	
グローバル化関連		⑨グローバル化	2	⑨グローバル化	2
⑩教育の国際通用性等	3	法人の業務運営等(6項目)		自己点検・評価及び情報の提供	
⑪海外の大学等との連携	3	業務運営		⑤自己点検・評価及び情報の提供	3
		①組織運営の改善	3	その他業務運営	
		②教育研究組織の見直し等	3	⑥その他業務運営	4
		③事務の効率化・合理化等	3		
		財務内容			
		④財務内容の改善	3		

(参考) 第二期中期目標期間(H23~H28)

段階	評定 評語	第二期		28年度		27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
1	年度計画を大幅に上回って実施	11	21%	7	15%	3	6%	7	15%	3	6%	5	10%	6	12%
2	年度計画を順調に実施	41	79%	39	85%	44	94%	40	83%	45	94%	45	90%	44	86%
3	年度計画を十分に実施できていない	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	1	2%
4	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
項目数		52	100%	46	100%	47	100%	48	100%	48	100%	50	100%	51	100%
年度計画なし(外数)				6	-	5	-	4	-	4	-	2	-	1	-

※第二期中期目標期間(H23~H28年度)は、4段階評価。